

倶多楽の火山活動解説資料（平成 22 年 2 月）

札幌管区気象台
火山監視・情報センター

火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。
平成 19 年 12 月 1 日に噴火予報（平常）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・ 火口や噴気の状況（図 2～4）

15 日に北海道開発局の協力を得て上空からの観測を実施しました。日和山では、やや活発な噴気活動が続いていました。大湯沼、地獄谷爆裂火口では弱い噴気活動が続いており、前回の観測（2008 年 3 月）と比べてその状況に変化はありませんでした。また、赤外熱映像装置¹⁾による観測でも、各火口の地表面温度分布に変化はありませんでした。

・ 地震活動（図 5、表 1）

広域ネットによる観測では、倶多楽付近を震源とする地震は少ない状態で経過しました。

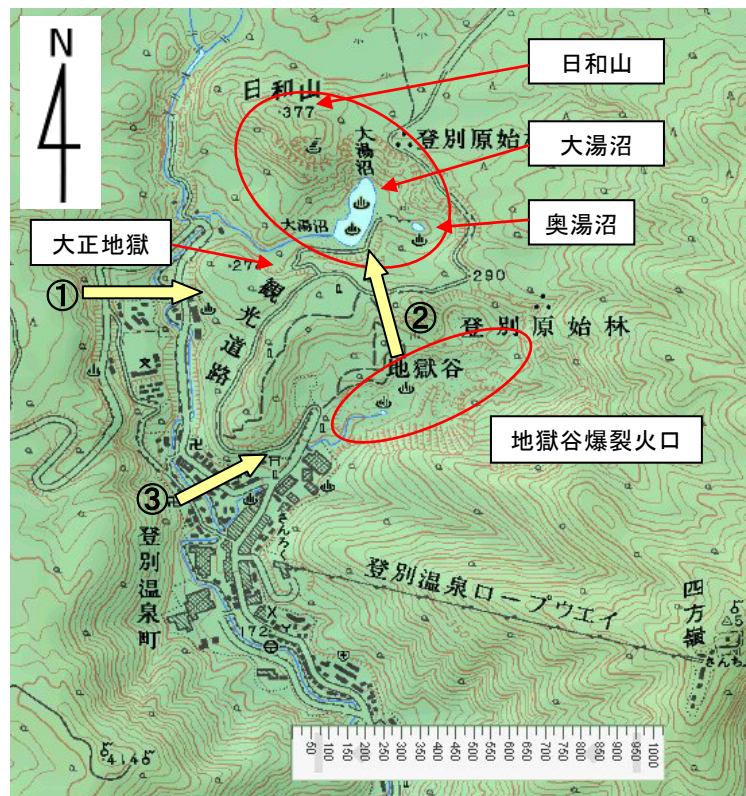


図 1 倶多楽の火口位置（矢印は写真及び熱映像の撮影方向）

1) 赤外放射温度計や赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を感知して温度や温度分布を測定する計器です。熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

この火山活動解説資料は札幌管区気象台のホームページ(<http://www.jma-net.go.jp/sapporo/>)や気象庁のホームページ(<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>)でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 22 年 3 月分）は平成 22 年 4 月 8 日に発表する予定です。

※ 資料は気象庁のほか、北海道大学、独立行政法人産業技術総合研究所のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50m メッシュ（標高）』及び『数値地図 25000（地図画像）』を使用しています（承認番号 平 20 業使、第 385 号）。

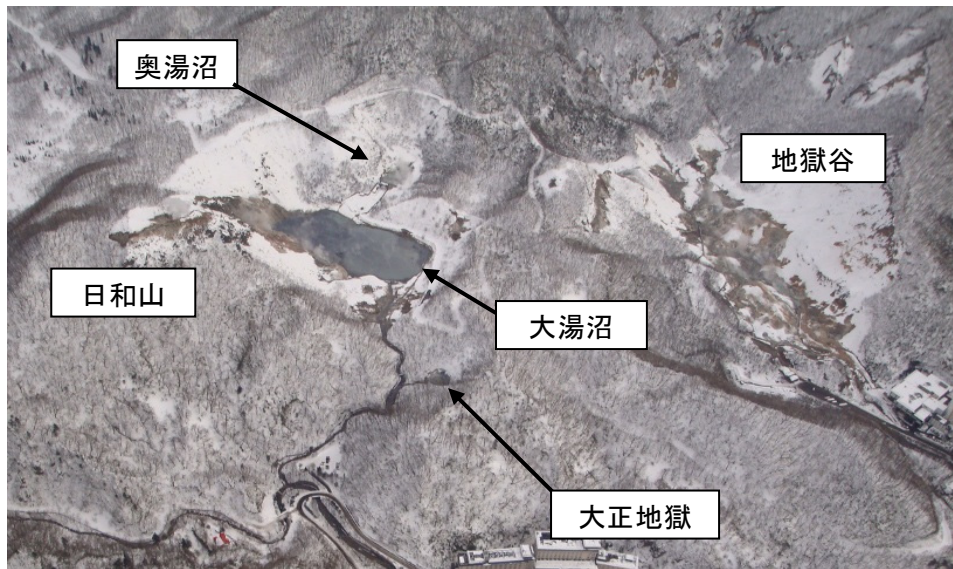


図 2 倶多楽 西側上空から撮影した地獄谷爆裂火口と日和山・大湯沼周辺の状況
（2 月 15 日、図 1 の①方向より撮影 北海道開発局の協力による）

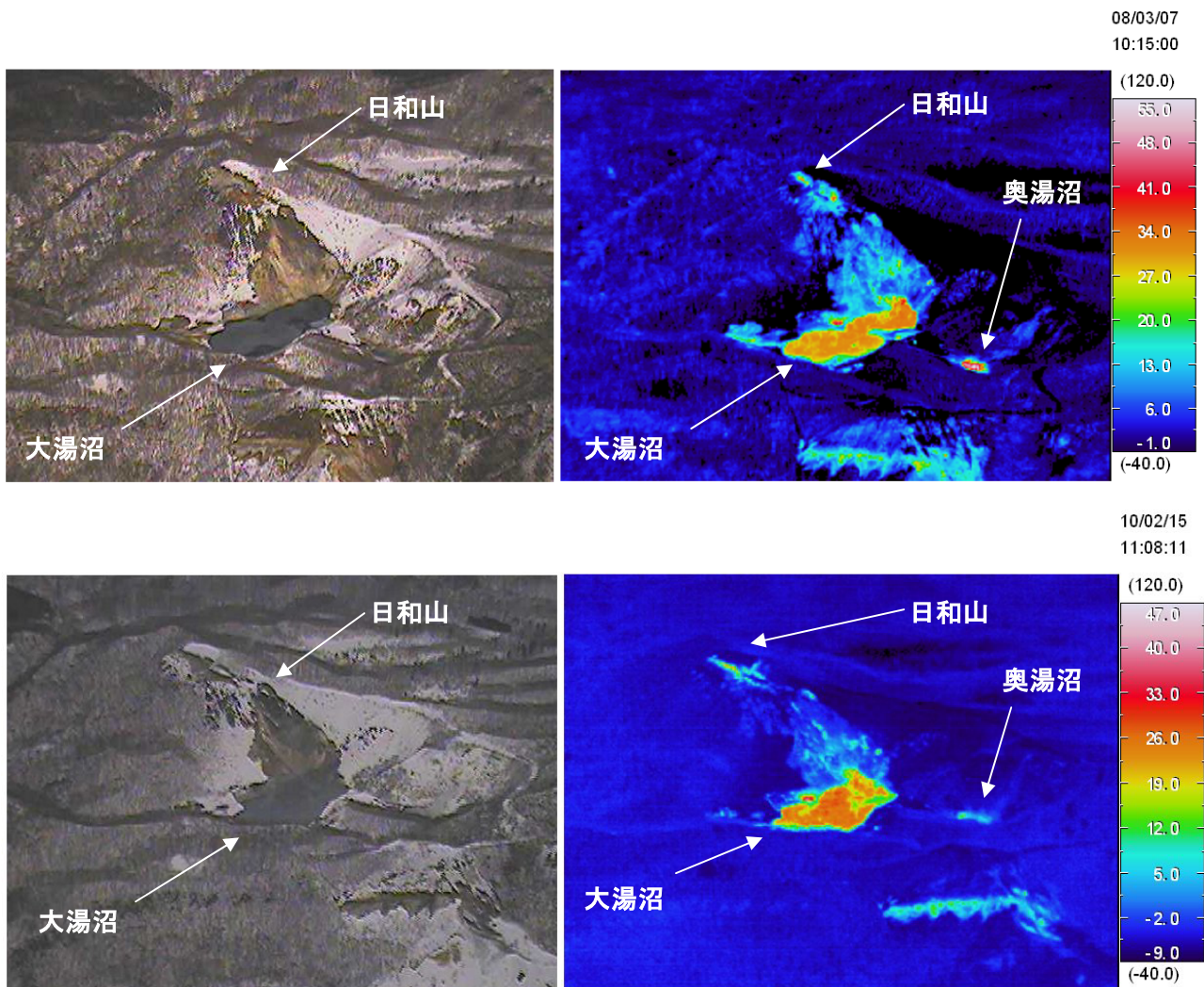


図 3 倶多楽 赤外熱映像装置¹⁾による日和山・大湯沼周辺の地表面温度分布
（図 1 の②方向より撮影 北海道開発局の協力による）
上段：2008 年 3 月 7 日 下段：2010 年 2 月 15 日

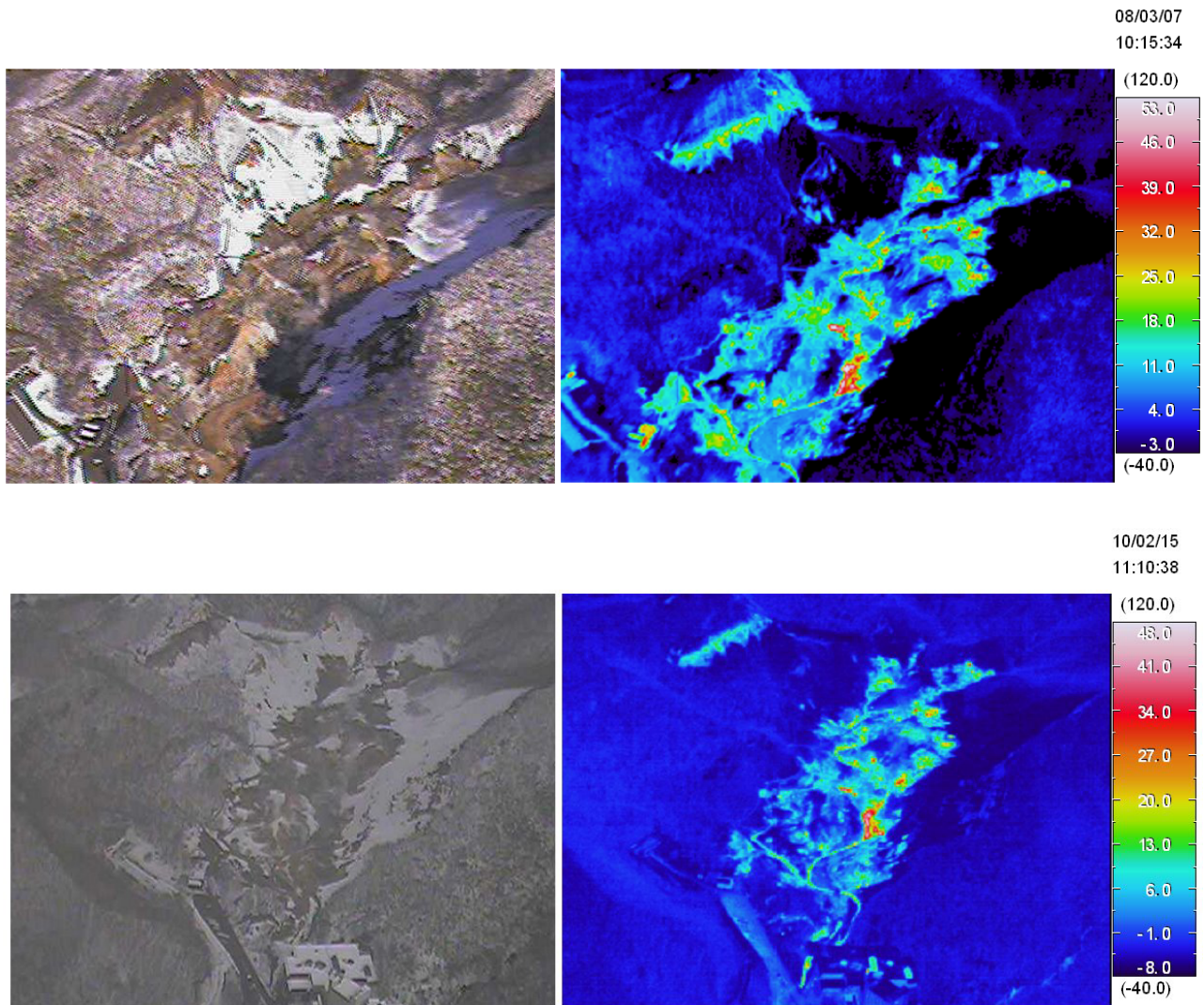


図4 倶多楽 赤外熱映像装置¹⁾による地獄谷爆裂火口周辺の地表面温度分布
(図1の③方向より撮影 北海道開発局の協力による)
上段：2008年3月7日 下段：2010年2月15日

- ・日和山山頂部、大湯沼、地獄谷爆裂火口の噴気活動や地表面温度分布は前回（2008年3月）の観測と比べて変化はありませんでした。

表 1 倶多楽 地震・微動の月回数（図 6 の上登別で計数）

2009～2010 年	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月
地震回数	5	1	2	2	1	0	*(2)	×	×	×	×	×
微動回数	0	0	0	0	0	0	*(0)	×	×	×	×	×

*地震観測点上登別は障害のため2009年9月5日から欠測となっています。

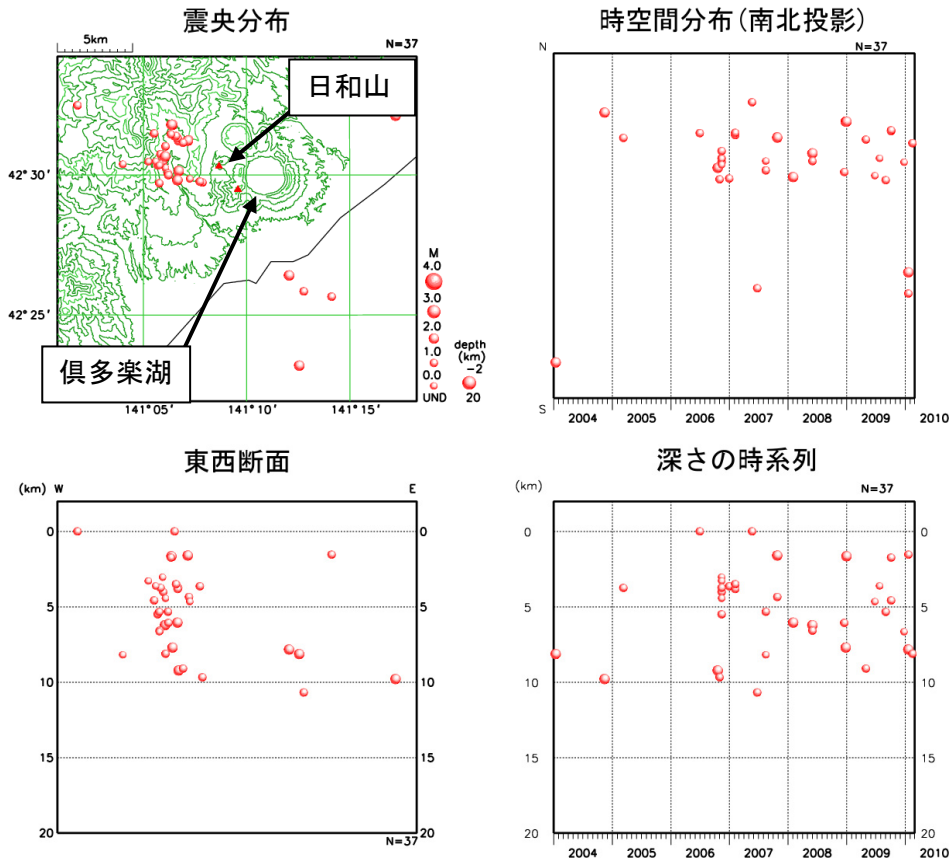


図 5 広域ネットによる倶多楽周辺の地震活動(2004 年 1 月～2010 年 2 月)

マグニチュード (M) は地震の規模を表します。資料中の震源要素は一部暫定値で、後日変更することがあります。

- ・広域ネットによる観測では、倶多楽付近を震源とする地震は少ない状態で経過しました。

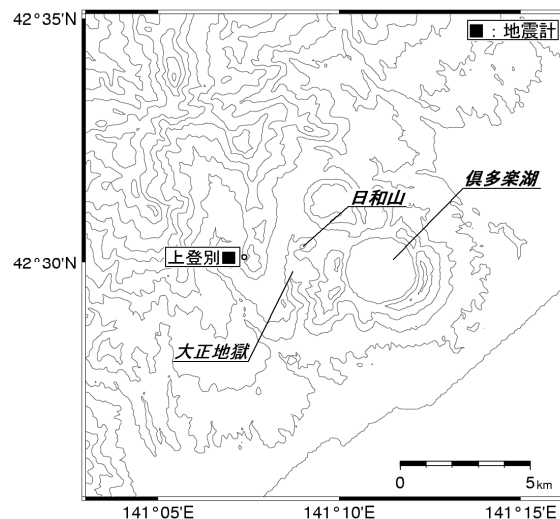


図 6 倶多楽 地震計配置図